

事例勉強会の報告

令和5年10月に実施した事例勉強会について、以下のとおり報告する。今回の事例勉強会では、障がい当事者部会員を交えて意見交換を行うことで、より多角的な視点で事例を検討し、虐待や差別に対する対応力の向上を図った。

1 実施日等

開催日：令和5年10月4日（水）

参加者数：8名（権利擁護部会員5名、障がい当事者部会員3名）

2 事例検討事項（2件）

※個人情報保護の観点から、事例の詳細は省略

事例 タイトル	見た目に関する差別とその防止策
問題 (課題)	障がい者が、区民から好奇の目で見られ、不快な思いをした。
検討 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の発生要因 ・障がいに関心が低い区民に対しても理解を広めるツールの検討
参加者の 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・差別をしようと思ってしているのではなく、障がいを知らない、理解がない、慣習等による行動が、当事者にとっては嫌な行為になってしまう場合もある。 ・重度の障がい者や、見慣れない補装具使用者は、物めずらしさから好奇の目で見られた経験がある。 ・短い動画を作成し、各所で放送している自治体がある。一般の人が目につく場所で周知を図ることが重要。 ・過度な反応をすることは、不快な思いをさせてしまうということを伝えていく。 ・障がい者記念行事を商業施設や商店街の中で行う等、区民と障がい者の交流を広げる工夫が必要。 ・広報や公式 LINE など、紙面と SNS の双方を使って周知していくべき。

事例 タイトル	母からのグループホーム利用反対に伴う暴言・暴力、経済的虐待の可能性
問題 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・本人と母の間で、グループホームへの入居希望のタイミングに乖離がある。 ・本人の強い希望から、母への介入には至らず、母との同居を継続している状況である。
検討 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が養護者への介入を拒否している場合の対応 ・本人のお金を守るための支援方法

参加者の 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・母が、本人のグループホーム入居に反対している背景には、母が本人のお金を生活費にしまっている場合と、子離れできていない場合が考えられる。こうしたケースはよくある。 ・年代によって、自分が元気なうちは自宅で一緒に暮らしたいという親が多い。早いうちから準備しておくよう、支援者からの説得が必要。 ・本人がグループホームの入居を希望しているのであれば、支援者が母を説得した方がいいと思う。 ・母も含めて、家族支援を行っていくことが大切。 ・法人後見などの利用を進め、金銭管理を母から離す支援も必要。 ・通所先の職員や、計画相談員など、関係者全体でチームとして支援していくことが重要。
--------------	---

3 参加者の感想

- 普段関わっている障がい種別とは違う分野について、理解を深めることができた。
- 差別の事例をまとめて、広報などで周知するのもよいと思った。
- 障がい者雇用をしている企業でさえ、合理的配慮が不十分だと感じている。引き続き差別解消に向けた取組が必要である。
- 難しい事例だが、できることを地道に続けていくことが大切だと思った。そのなかで、介入できるタイミングを逃さないことが大事である。
- 虐待対応では、本人が助けを必要と感じていないときでも、支援者が必要と判断した場合は介入していかなければならない。個々のケースで対応も異なるため、こうした勉強会で、対応を検討していくことが大切だと思った。

4 事務局（障がい政策課）の感想

- 初めて差別事例を検討し、障がい当事者や親からの目線で意見をもらえたことで、より多角的な視点で事例を検討することができた。
- 部会同士の連携が少ない中で、権利擁護部会員と障がい当事者部会員とが連携しあえる貴重な場になったと思う。
- 本人の申し出により、介入が難しい事例があるが、本人が何を希望しているのかに着目し、支援方針を組み立てていくことが重要だと改めて感じた。

5 今後のスケジュール

開催時期：令和5年12月19日（火） 10時00分から12時00分まで

検討事例：事務局が用意するが、部会員から寄せられた事例も可とする。

※開催通知文とともに事例の募集を行い、所定の様式により、事務局へ事前提出する。